

〈3〉ヒズボラ（Hezbollah）：その正体とは？

中東金融・エネルギー問題専門家 中嶋 猪久生

まえがき

世界情勢を眺めてみると、メディアで「ヒズボラ」という言葉が頻繁に登場する。ヒズボラとはアラビア語で「神の党」を意味し、一般的には、レバノンに拠点を置き、イランが支援する過激派武装集団と説明される場合が多いようだ。2023年10月、「ハマス」がイスラエルを攻撃した後、ヒズボラはイスラエルとレバノンの国境を越えて、ロケット弾や迫撃砲を発射した。これはヒズボラの指導層が軍事的に劣る同盟組織ハマスとの「一体」を示したものだ。2024年9月、イスラエルはゴラン高原への攻撃を理由に同地域やレバノンのヒズボラ軍事施設への空爆を強化し、レバノン南部への地上侵攻を開始した。現在は、双方で、一時的な停戦協定が成立しているが、再び武力衝突が再燃しかねない状況にある。

筆者は、昨年3月、ハマスの資金および武器調達についての考察を行った（2024.3 Vol. 210 CISTEC Journal）。今回は、第二部として、ハマスよりはるかに規模も大きく、最も裕福なテロ組織、ヒズボラの資金調達について分析する。資金源と政治を融合させることによってヒズボラは他に比類のないテロ組織になっている。

ヒズボラの正体とは？ 思いつくままに挙げるとすれば、40年以上にわたり、様々な政治、犯罪、テロ活動をしてきた世界的規模の組織であるといえよう。しかし、その活動を大別すると、①紛争地域で

イランの代理組織、②主に、ユダヤ人を標的とするテロ組織、③世界中の違法薬物（コカイン、ヘロイン、カプタゴン等）取引に関与する麻薬密売組織、④資金洗浄（money laundering; 以下「資金洗浄」）グループ、⑤6大陸から非合法に調達した物資のネットワークを支配する密売グループ、などになる。このネットワークの実態はいまだにベールに包まれたままだ。ヒズボラをどのように分類するかについては、多くの議論を呼び起こしている。イラン政権の影響を強く受けているヒズボラは、中東、アフリカ、南米（ラテンアメリカ）、米国、欧州に影響力を広げている組織だ。本論考は次の7項目で構成される。

第一章 ヒズボラの概要

第二章 ヒズボラ最大の支援者イランとの関係及び資金支援の推移

第三章 ヒズボラの資金源と資金調達

第四章 麻薬取引

第五章 ヒズボラと資金洗浄

第六章 軍事支援

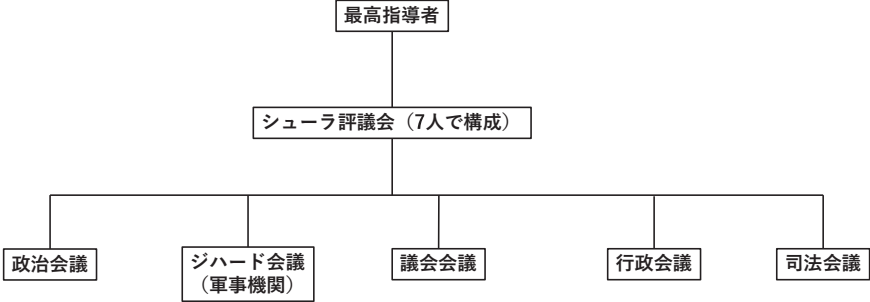
資料 ヒズボラの主な支援者とは

第一章 ヒズボラの概要

第一章の概要では各項目の概要を記載し、詳細については第二章以下にて触れる。

1 起 源	ヒズボラはレバノンの15年間に及ぶ内戦(1975～1990年)の最中の1982年に創設された。1970年代後半のスニ派のパレスチナ難民の流入はレバノンの人口動態に影響を及ぼした。スニ派が増加していく中で、少数派のシーア派による不満や疎外感が高まっていた。そんな時に起きたのが、レバノン内戦だ。1975年にレバノン内戦が勃発すると、各地域で多数派が少数派を攻撃し、支配地域から追放する「民族浄化」が起きた。これらのグループが南レバノンをイスラエル攻撃の拠点として使い始めたことが、イスラエルによる占領につながった。さらに、その年月は少数派のキリスト教徒の支配下でシーア派コミュニティが差別され、疎外された時期でもあった。 パハラビ王朝を打倒した1979年の革命によりイランで新たに樹立された政権の支援を受けて、レバノンのシーア派はイスラエルの占領に対して武器を取った。ルホラ・ホメイニにより設立された私兵であるイラン革命防衛隊(以下「IRGC」)は、イスラム革命を守る任務を負っており、資金を提供し、シーア派民兵を訓練し、ヒズボラの結成を支援した。このグループはレバノン国境を越えて活動を展開し、イランにとって重要な資産となり、中東全域でイランの代理組織として奉仕することになっていく。これがヒズボラの起源だ。
2 ヒズボラの設立 綱領	ヒズボラの目標は、イスラエルに対する武力紛争、レバノンにおけるイスラム・シーア派国家の樹立、すべての占領地の解放、イスラム国家から非ムスリムの排除、イランの「シーア派三日月地帯¹」計画の実施だ。 当初、ヒズボラの名において発出された「被抑圧者たちへの公開書簡」の冒頭には「輝きを増し、レバノンの被抑圧者のため火を灯し、自由で高貴な生活を実践し、清浄な血の炎によってシオニスト政体(イスラエル)とその仲間の暴虐を焼く松明へ」という抵抗と革命の思想が謳われている。
3 現 状	イランが支援するイスラム教シーア派組織であるヒズボラは中東で最も強力な非国家組織と考えられていたが、2024年にイスラエルがヒズボラに対して行った軍事作戦による多数の軍司令官や政治指導者の殺害や、同年9月ヒズボラの最高指導者ハッサン・ナスララの殺害によりその勢力は大幅に弱体化したようだ。
4 支配・活動地域	ヒズボラはベイルートの一部、レバノン南部東ベッカー高原地域など、レバノンのシーア派が多数を占める地域の多くを支配地域としている。その後、イラクとシリア、イエメンまで拡大していく。 他方、1943年のレバノン独立前からだけでなく、内戦による国土の荒廃のため、多数のイスラム教徒が欧米だけでなく南米、アフリカに移り住み、その地で商才に長けたレバノン人が商人として成功する者が多かった。彼らはディアスポラ(Diaspora、離散民、以下「ディアスポラ」と呼ばれるが、ヒズボラの資金調達や資金洗浄で重要な役割を担ってきたことを忘れてはならない。
5 レバノン政治の中でのヒズボラ の役割「国家の中の 国家」(State within State)	① 国会議員・閣僚 ヒズボラは自ら政党を設立し、1992年に8人が国会議員に選出されて以来、レバノン政府に定着し、2005年以降は閣僚を務めている。2022年の国政選挙では、ヒズボラはレバノンの国会128議席のうち53議席を確保した。 ② 行政サービス ヒズボラは支配地域では実質的に政府として活動しており、軍も連邦当局もこれに対抗することができない。ヒズボラは、インフラ、医療施設、学校、青少年プログラムなどを含む広大なサービスのネットワークを管理しており、これらはすべて、シーア派、非シーア派を問わず、レバノン人から支持を集めるのに役立ってきた。1943年、レバノンがフランスから独立する際に結んだ国家協定に由来し、複数の宗派勢力は、それぞれが国内政治に関与しており、政治権力は均等分配されている。具体的には、大統領はキリスト教マロン派、首相はイスラム教スニ派、議会議長はシーア派に割り当てられている。その他重要人事としては、陸軍司令官、中央銀行総裁、財務大臣、治安総局長のポスト。 ③軍事力 ・ヒズボラは軍事力を維持している。サウジアラビアとシリアが仲介し、レバノン内戦を終結させた1989年のタイフ合意でヒズボラは武器の保持を認められた唯一の民兵組織だった。大規模な砲兵兵器庫を保有しており、世界で最も重装備した非国家主体といわれている。 ・2025年1月、レバノンのジョゼフ・アウン大統領は議会での就任演説で「武器を所有する権利は国家のみにある」と述べた。武装解除を拒むヒズボラを念頭に、軍以外の武装を認めない姿勢を強調した。 ・ヒズボラの実存は、レバノンのすべての民兵組織に解散と武装解除を求めた2004年に採択された国連安保理決議1559に違反している。中央政府の権威回復のため1978年に初めて派遣された国連レバノン平和維持軍(UNFIL)は今もレバノンに駐留しており、その任務の一部はヒズボラに武装解除を促すことにある。

¹ イラン、イラク、シリアのシーア派三カ国。

6 組 織	ヒズボラの組織は最高指導者を頂点とし、その傘下には各種評議会が存在する。  <pre> graph TD A[最高指導者] --> B[シュエラ評議会 (7人で構成)] B --> C[政治会議] B --> D[ジハード会議 (軍事機関)] B --> E[議会会議] B --> F[行政会議] B --> G[司法会議] </pre> ヒズボラのナスララ事務総長は 2024 年 9 月、殺害された。ヒズボラのトップとして、ナスララ師の持つカリスマ性を考えると、明確な後継者は今のところ出てきていない。同年 10 月、最高指導者として No.2 のナイム・カセム氏が選出された。1953 年生まれ。ヒズボラ創設当初から活動。1991 年からは No.2 としてナスララ指導部を支えてきた人物だ。
7 活動資金の調達概要	ヒズボラへの主な資金調達は、 ① 外国からの支援：イランからの資金提供、 ② 世界中のイスラム教慈善財団からの寄付、 ③ 国外のレバノン人ディアスポラやヒズボラ支援者からの寄付、 ④ 非合法ビジネス：麻薬取引や違法活動に基づくビジネス、 ⑤ ヒズボラが課す税金や脅迫（みかじめ料など）。 ⑥ 誘拐ビジネス、 上記のうち、ヒズボラの総収入のうち半分以上が麻薬取引（南米、レバノン、シリア）によるものと推測されている。
8 ヒズボラとレバノン金融部門との関係	① グローバル・ベースで行われるヒズボラ関連のレバノン資金洗浄の最終的受け皿は、2011 年頃まではレバノン・カナダ銀行（LCB）であったが、その後はレバノンの地場銀行に受け皿の口座は分散されて、現在も続いている。 ② レバノン・カナダ銀行事件の経緯と結末。 ② ヒズボラ関連の金融機関としては、AQAH（アル・カード・アル・ハサン協会）、ベイト・アル・マル、ユセル金融投資会社。
9 ヒズボラの予算	ヒズボラはこれらのビジネスを通じて莫大な金額を稼いでおり、これらの資金を南レバノンの社会サービスの資金源、レバノンやシリアでのヒズボラ戦闘員の給与、武器購入、グループおよび海外の犯罪組織の設立・維持に充当されている。予算が公表されることはないが、社会、医療、教育の 3 部門の社会サービスを行っている。2016 年時点の予算総額は約 10 億ドルと報道されている。

第二章 ヒズボラ最大の支援者イランとの関係及び資金提供の推移

ヒズボラはレバノンに拠点を置くシーア派のテロリスト・グループで、その活動はイラン政府から資金や武器の供与、武器製造の技術移転、ヒズボラ戦闘員の訓練等、多方面から支援を受け、中東だけでなく南米等でもイランの代理勢力としてだけではなく、世界で最も裕福なテロリストとして存在感が増してきている。本章では、イランの支援内容やグローバルな視野からイランとヒズボラの関係について考察する。

2 - 1 イランの資金支援と資金提供の推移

1982 年のヒズボラ創設後、イランは年間 1 億ドルの資金を提供し、10 年後には 2 億ドルに増額して以来、油価や制裁の影響により増減はあったものの、資金提供を続けている。2016 年以降、ヒズボラの年間予算の 70～80% はイランの支援といわれている。しかし、2018 年以降の制裁強化によりヒズボラの台所は苦しいやりくりを迫られている。最近、イスラエルとハマスやヒズボラとの武力紛争がエスカレートしていくにつれて、現在ではイランの支援は 8 億ドル超まで増加している。なお、支援額の推移は次のようである。